

在日外国人ケア労働者と日本人の協働文化の構築に向けて(2)

～介護施設で就労する日本人スタッフの視点からの協働要素の分析～

○畠中香織(大阪大学)・山本恵美子(宮崎大学)・田中共子(岡山大学)

キーワード：日本人スタッフ、外国人ケア労働者、介護施設、協働文化、異文化間ケア

目的

経済連携協定によりインドネシア、フィリピン、ベトナムから外国人ケア労働者が来日し、2017年11月からは外国人技能実習制度に介護分野が追加され、将来的に多くの外国人の就労が予測されている(厚生労働省, 2017)。少子高齢化の日本においてケア現場の多文化化は進み、外国人の介護分野における活躍に期待がかかる。しかしながら、ケアや生活習慣の違い、日本語能力の不十分などから日本人との協働には困難も多く、協働環境の構築への支援は重要な課題である。本研究は外国人と日本人の協働文化の構築へ向けた継続調査であり、介護施設で就労する日本人スタッフに焦点を当てた要素について報告する。

方法

1. 研究協力者：西～東日本の介護施設に勤務する日本人スタッフ10名(女性5名、男性5名)。**2. 手続き：**2016年3月から2016年12月に、外国人を受け入れている介護施設へ調査依頼を行い、日本人スタッフに対して調査の趣旨を説明してもらい、承諾を得て実施した。許可を得てICレコーダーに録音をした。一人約1時間とし、個人面接を実施した。質問内容は、外国人と働くことでの良さや困難、日本人から外国人への配慮、外国人へ期待すること、協働について、高齢者へのケア提供についてなどである。**3. 分析方法：**分析にはKH Coder(ver.2.00)を使用した。テキストデータ、1)外国人と働くことでの良さ、2)外国人と働く困難、3)外国人への配慮、4)外国人への期待、5)協働するための要素、6)高齢者へのケア、をグループ毎に共起ネットワークを作成し、意味内容が類似したものをグループ化し、共通の意味を表すカテゴリに分類した。**4. 倫理的配慮：**本研究は、同志社女子大学の倫理審査の承認を得て実施した。日本人に対して研究参加は自由意志であり、辞退により不利益を被ることがないことを文書と口頭で説明し、同意を得て実施をした。**5. 利益相反開示：**発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業はない。

結果

1. 共起ネットワークに基づいたカテゴリ抽出：テキストデータの共起語から分類されたカテゴリ名を以下に示す(表1)。1)「外国人と働く良さ」は、<ケアの優しさ熱心さから受ける刺激>、<外国人との協働による職場雰囲気の変化><文化差が少ないケア技術>であった。2)「外国人と働く困難」は、<詳細な指示伝達><記録等の文字表現><指導や注意>であった。3)「外国人への配慮」は、<外国人の能力・理解力に応じたサポートの提供><文化面を配慮した外国人の行動の理解><適切なケア技術の指導>であった。4)「外国人への期待」は、<コミュニケーション力の向上><日本の仕事内容の理解><状況に応じた母国語の使用>であった。

5)「協働するための要素」は、<ケアに求められるコミュニケーション><文化差に配慮した関わり><外国人を受け入れる環境><意思疎通>であった。6)「高齢者へのケア」は、<ケアを通じて伝わる外国人の熱心さ><高齢者の方言への対応困難><丁寧なケアの提供>であった。

表1. インタビュー内容のカテゴリ名と共起語(一部)

群	カテゴリ名	共起した語	インタビュー内容(抜粋)
1)	1	ケアの優しさ熱心さから受ける刺激	優しい、一生懸命、丁寧、声
	2	協働による職場雰囲気の変化	頑張る、明るい、見える、勉強、刺激
	3	文化差が少ないケア技術	基本、普通、技術、日本、変わる、挨拶
2)	1	詳細な指示伝達	難しい、言葉、伝える、コミュニケーション、細かい、急ぐ
	2	記録等の文字表現	日本語、言う、外国、記録、一番、分かる
	3	指導や注意	注意、認める、違う、苦手、基本
3)	1	能力・理解力に応じたサポート提供	外国、分かる、言う、言葉、利用、フォロー
	2	文化面を配慮した外国人の行動の理解	注意、気、文化、個人、前
	3	適切なケア技術の指導	技術、普通、入る、職員、教える
4)	1	コミュニケーションの向上	コミュニケーション、働く、難しい、困る
	2	日本の仕事内容の理解	外国、覚える、動く、勉強、対応
	3	状況に応じた母国語の使用	母国、日本語、言葉、時間、固まる
5)	1	ケアに求められるコミュニケーション	利用、コミュニケーション、個性、日本語、必要、
	2	文化差に配慮した関わり	受け入れる、文化、時間、気持ち
	3	外国人を受け入れる環境	外国、環境、言う
6)	1	ケアを通じて伝わる外国人の熱心さ	利用、外国、人、来る、伝わる、真面目、一生懸命
	2	方言への対応困難	見る、方言、対応、刺激、難しい
	3	丁寧なケアの提供	日本、年寄、今、丁寧

考察

日本人スタッフは外国人の異文化性を理解しながら、現場の状況に適した言語、記録、職場慣習などの必要なサポートを提供していると考えられる。また、外国人と働く上での困難を感じ、即戦力としての労働を期待することは難しいと認識しながらも、彼らのケアへの熱心さや真面目さ、高齢者への丁寧な対応を認めている様子が伺える。これらから、日本人が外国人との協働に関し、前向きな姿勢を持っていると推測できよう。今後、日本人と外国人の良好な職場の協働文化の醸成に向けて、日本人、外国人の調査より示唆された協働要素を組み込んだ異文化間教育の実践が不可欠となる。日本人、外国人が実践する相手への文化的配慮を認識しあうことで、協働環境や質の高いケアの創造へとつながるであろう。

謝辞：本研究はJSPS 科研費 Jp15H06734 の助成を受けました。(KAORI, Hatanaka, EMIKO, Yamamoto, TOMOKO, Tanaka)